

山中饒舌

眼前に迫る青い岩石
僕の胸の中にはもう一人の僕がゐて
彼の方はさらに突き進んで崖を廻りました
そこには もう 道がありません
よく見ると彼の胸の中には さらにもう一人の僕がゐて
はるか遠くの坂を登って行くのが小さく見えるのです
黄土色の帯のやうに垂れ下つてゐる細い坂を
空しい気持で登って行く有様が見えるのです
我等三人の上空を一本の矢が過ぎ去り
いづこともなく矢は落ちて行きました
坂道を登りつつある者の呼吸は乱れはじめ
ふきげんにこちらをふり向いてみたりしてゐます
僕はなんにも言ひませんでした
やりきれない気持になりました
もう一人の僕が声に出して はるかなる者に呼びかけてゐます
帰らう いつしよに もどらう と こだまさへまじへて
二人の対話は 白い線になつて行き交ひました
しかし はるかなる者はなほ坂の途中を上昇して行きます
自分は自分だから 放つておいてくれ
はるかなる者のいら立ちが手にとるやうです
僕だけは自分の道をもどらうと思ひます
はるかなる僕は もう一人の僕にまかせておいて
胸を割つても 僕はもどらうと思ひます